

# 特集

## 「りんご農作業受委託システム

## 確立へ向けてのアンケート」

### 中間集計結果の概要

J A相馬村ではJ Aが仲介して農作業受委託を管理する「りんご農作業受委託システム」の構築を考えており、それに先立って「りんご農作業受委託システム確立へ向けてのアンケート」を実施しました。

この度、アンケートの中間集計が終了したので結果を公表します。みなさんがJ A相馬村管内の現状を知る手助けになれば幸いです。

※未提出者は早めに提出してください。

りんご農作業受委託システム確立に向けてのアンケート

地区名 弘前市五所

組合員名 相馬 次郎 ( 54 才)

質問に対し、該当するものに○を付けるか、直接記入して下さい。

の現状について

培面積をお知らせください

丸葉 (約 1 町 5 反歩)

い化 (約 0 町 3 反歩)

の農作業は誰が行っていますか (複数回答 可)

本人 ・ 家族 ・ 他人へ委託

その他 ( )

本人 ・  家族 ・ 他人へ委託

その他 ( )

本人 ・ 家族 ・ 他人へ委託 ・  共防へ委託

その他 ( )

本人 ・ 家族 ・ 他人へ委託 ・ J Aへ委託

その他 ( )

→ 現在就農中 ( ) 才)

→ 将来就農予定 ( 1.0 才)

# 農作業の現状について

今回のアンケートはJA相馬村管内のりんご出荷組合員に対して実施し、11月末現在で約60%の組合員から回答を得ることができました。

1つ目の質問は「農作業の現状について」です。質問の目的は、今現在の農業者と、今後について感じていることを知ることです。

## ○大半が家族経営

作業については剪定・草刈・薬剤散布・りんご運搬の4つを質問の対象としています。その結果、「本人が作業をしている」と答えた生産者が7割を超えました。次いで「家族が作業している」との回答が多いことから、大半が家族経営であると考えられます。

なお現在の委託状況は、12%の生産者が共防に薬剤散布を委託しています。剪定については約20%の生産者が他の人に作業を委託し

ていますが、理由としては、降雪などで作業が遅れた場合に一人ですべての園地の剪定作業を行うことが困難になるケースがある、などが挙げられます。

## ○将来へ感じる不安

今後の農作業に対して不安を感じている生産者の数は少なくありません。平均すると3割、剪定作業については4割近い生産者が「現在、あるいは5年後以降に不安を感じている」と回答しています。

「農作業について感じていることがあればお書きください」という設問に対して、比較的高齢な生産者から「離農を考えている」「農業へあまり魅力を感じない」といった後ろ向きな意見が多い中で、若い生産者からは「将来は剪定を自分で習得したい」という前向きな意見もありました。

### ■現在の農作業は誰が行っていますか？（複数回答可）

	本人	家族	既に委託している		
			他の人	共防	J A
剪 定	74.7%	24.3%	20.2%		
草 刈	84.9%	33.6%	3.8%		
薬 剤 散 布	75.0%	16.8%	4.8%	12.0%	
りんご運搬	79.8%	33.9%	4.8%		3.4%

草刈・りんご運搬については本人または家族が農作業を行う割合が高い。薬剤散布については共防へ作業を委託するケースも見られる。

### ■今後の農作業についてどのように感じていますか？

	当分 問題ない	将来 不安を感じる
剪 定	55.8%	37.0%
草 刈	70.9%	23.2%
薬 剤 散 布	63.7%	28.8%
りんご運搬	65.1%	28.8%

#### 〈農作業について感じていること〉

- ・ 剪定は自分で習得したい
- ・ 将来は委託したいと思う
- ・ 高齢のため離農を考えている
- ・ 農業へあまり魅力を感じない …など。

平均すると約3割の生産者が、将来の作業に不安を感じている。

## ○生産者の年齢層と後継者の問題

生産者の年齢層、そして後継者の有無を集計したものが下の表です。50代以上の組合員が全体の80%以上を占める一方で、50歳未満の組合員が極端に少なくなっています。これは産地の明らかな高齢化を示しています。

「後継者はいますか。また、その後継者は現在就農中ですか。」の問いに対しては、「いない」「無回答（まだわからない）」の回答が約65%を占めました。一方で、残り約35%の組合員は「後継者がいる」と答えており、現在就農中および就農予定者の割合はほぼ同じとなりました。

### ○後継者の年齢層

現在就農中、および就農予定者のそれぞれについて、その年齢層をまとめました。

現在就農中の後継者は、そのうちの約45%が30代でした。ついで20代の後継者が約23%となっています。将来の就農予定者について



佐久間康幸さん（右）も後継者の一人

は、50歳以上を除くすべての年齢層でほぼ同数いることが分かります。全員が就農しないとしても、潜在的な後継者と見ることが出来るのではないのでしょうか。農業者の減少が叫ばれる現在において、農業を志す若い後継者がいることは頼もしい限りです。

#### ■あなたの年齢を教えてください。（年齢層別で集計）

（無回答：4.2%）

	30代	40代	50代	60代	70歳以上
組合員の年齢層	1.4%	14.0%	31.8%	28.1%	20.5%

組合員の年齢であり、実際の作業者はより高齢のケースもある。

#### ■後継者はいますか？また、後継者は現在就農中ですか？

い	る	33.9%	→	現在就農中	47.5%
				将来就農予定	52.5%
い	な	い			62.0%
無	回	答			4.1%

※「まだわからない」を含む

平均すると約3割の生産者が、将来の作業に不安を感じている。

#### （参考）後継者の年齢層

（小数第2位以下四捨五入）

	20歳未満	20代	30代	40代	50歳以上
現在就農中	2.1%	23.4%	44.6%	19.2%	10.7%
将来就農予定	23.0%	21.1%	21.1%	23.0%	11.6%

60%を超えるりんご農家世帯で「後継者がいない」と回答している。

## 農作業の委託・受託について

## ■作業を委託したいと思う生産者に対する、引受けできる生産者の割合

	委託したい (A)	引受けできる (B)	供給可能 (B/A)
剪定	24.7%	6.6%	26.7%
草刈	12.3%	6.5%	52.8%
薬剤散布	15.8%	5.2%	32.9%
りんご運搬	19.5%	4.5%	23.1%

委託を希望しても、引受けできる人の数は限られている。

次の設問は、農作業の委託（誰かをお願いする）、および受託（引き受ける）に関する事項です。今回のアンケートの主題ともいえる内容で、結果を集計したものが上の表です。「誰かにお願いしたい」と思っている生産者の割合が（A）、逆に「引き受けることができる」と回答した生産者の割合が（B）です。

## ○「近い将来委託したい」が大半を占める

上表の「委託したい」については、「今すぐ委託したい」と「近い将来委託したい」に細分することが出来ます。いずれの作業内容についても、「今すぐ委託したい」と回答した生産者は1〜3%にとどまり、大半が「近い将来委託したい」と回答しています。

## ○引き受けできる人は多くはいない

特に剪定や体力を要するりんご運搬作業では作業を委託したいと考える傾向が大きいです。しかしその一方で、生産者の年齢に関わらず、農作業を引き受け可能な人は少ないという現状が明らかになりました。

なお、あわせて質問した引き受け可能面積については、「本人が引き受け可能」「家族が引き受け可能」のいずれについても「おおむね1ha程度まで」という回答が大半を占めました。

## ○「引受けたい」と「引き受けられる」という課題はあります

「委託したい人」に対する「引受けできる人」の割合を、「供給可能」として上表に示しました。しかしながら、これはあくまでも

「相馬地区全域での割合」に過ぎません。

薬剤散布を例に考えてみましょう。仮に人員不足を理由に湯口地区の生産者が沢田地区の生産者の作業を受託（ⅡJAが仲介して受託者をお願い）したとすると、年10回強におよぶ薬剤散布の受託は作業者にとって相当の負担になります。このような受委託の形態は理想的とは言えません。このシステムを機能させるためには、需給のバランスはもとより、受託者にとって過度の負担にならないようにすることもまた重要な課題なのです。

このアンケートの集計結果から、さまざまな課題が浮かび上がってきました。今回紹介した薬剤散布の事例はその一部に過ぎません。今回の集計結果を踏まえて、「りんご農作業受委託システム」の確立へ向けて尽力してまいります。アンケートへのご協力ありがとうございました。